

家族みんなで読みましょう。

清元院だより

第3号

ずいぶん早く「彼岸桜」が咲きました。

彼岸桜は樹齡二千年を超えるものも

あるほど大変長寿な桜です。有名な

ソメイヨシノはこの桜との交配で

生まれたものだそうです。

彼岸桜は、時代が

移ろっても変わらない

強さと、新しい

ものを生み出し

ていく眼の両方が

大切なことを教えて

くれます。

清元院でも、仏さま

の教えを広めること、

これからの時代に合った

安心をお届けすること、「どちらも大切」と心得て

精進してまいります。

大梁山清元院 住職 井上英之 九拜

● 清元院の歴史

● 以西『仏さまめぐり②』

● お彼岸の作法・先祖供養

● イベント案内

■ 復活!! お大師講

■ 復活!! 戦没者慰霊祭

■ 坐禅会 (毎月第3日曜)

■ 写仏写経写仏の会(毎月第1日曜)

■ 清元院サポーターズ倶楽部

● おてらニュース

発行者・曹洞宗大梁山清元院

住職 井上英之

佛歴2559年 平成28年3月13日

表紙:清元院に咲く花③

「彼岸桜」

開花場所: 駐車場

保存版

清元院の歴史

「大梁山 清元院」(だいらりょうざん せいげんいん) これがこのお寺の正しい名前です。

今から約600年前の応永年間(室町時代1400年頃)、備前の国より「池田七郎定久」という武将が

この地に来られ、大仏山(池田家から真西の山)の山頂に城を築き、「大仏山真道成仏の城」(だいぶつざんしんどうじょうぶつのしろ)と名付けました。その後、永享年間(1430年頃)の合戦で落城し、七郎定久は高木家(現在の池田家)にしばらくかくまってもらい再興の時を待っていましたが、縁あって高木家の婿となり池田の姓を名乗りました。

そして合戦で命を落とした家来と高木家のご先祖の霊をとむらうため寺院の建立を発願して、大仏山から見下ろす向かいの山すそにこの寺を建て、退休寺(旧中山町退休寺)から「無塵良清(むじんりょうせい)大和尚」を開山としてお招きし、山号を「大梁山」、寺号を「清元院」と名付けました。今から570年ほど前のことです。以来、歴代十六世の住職を数え、現在十七世に至ります。

開基(最初にお寺を建てた人)の七郎定久は、戒名を「法経院華翁宗清大居士」とおくられました。**池田家は開基家**(お寺を開いた家)として現在位牌堂の観音様のすぐ右側に祀られており、明治20年に船上神社の宮司に任じられるまで約450年間、筆頭の檀家として清元院を護持して頂きました。

清元院は**教育の寺**で、江戸時代には住職が師となり寺子屋として手習いを行い、学制発布により明治6年には清元院を校舎として今地小学校(のちの以西小学校)が開校しました。明治26年には以西尋常小学校と改称し、当山十三世白翁月珊大和尚(大蔵月珊氏)が第四代校長となりました。さらに十六世、十七世も教鞭をとるなど、長きにわたりこの地の教育に尽力しました。



以西「仏さまめぐり」②

【山川木地】 『地藏やん』

山川木地部落のいちばん下に地藏堂があり『地藏さん』と親しみを込めて呼ばれる「地藏菩薩」が安置されています。お堂に棟札が3枚残っており、それによると、天下泰平・福寿増長・村内安全・火盜潜消(防火)を願って115年前の明治三十三年に安置されたようです。最初は6軒程の家を一年ごとに地藏さんが巡りお祈りしていたそうです。昭和22年にお堂ができ部落全体でお祈りするようになり、昭和五十二年には現在の位置にお堂が建てられました。

地藏さんの中の棒に「倉吉の仏師、西村文六」の作であることも書かれています。なんと!!金屋の「あんださん」と同じ作者のようです。(※前号であんださんの作者を読み間違えました。申し訳ありません。)

どうぞ地藏菩薩さま、山川木地のみなさんを末永くお見守りください。



お彼岸は、春分の日を中日（ちゅうにち）として前後3日ずつを合わせた7日間をいいます。季節の変わり目にあたり、いのちの尊さに感謝し、ご先祖様を供養し、ご加護を願う期間です。また自分自身のいのちの大切さを見つめなおす期間でもあります。

※宮木部落では中日の前の晩に、部落の薬師さんにお参りしてお経をあげる「中日ごもり」が今も続けられています。

お彼岸の作法

彼岸の入り（三月十七日）

- お仏壇、仏具の掃除
- お墓の掃除
- 花やお供え

※シブだけでも構いません。
 ※お供えをしてもよいです。
 ※お寺に参るとなるとお丁寧です。

お中日（三月二十日・春分の日）

- お仏壇参り
 - お墓参り
 - 花やお供え
- （墓のお供えは直接置かず、二つ折りにした和紙やトレイの上に置きます）
- 家族みんなで出かけましょう。
 - お寺参り
 - 位牌堂のご先祖様と本尊様にお参りします。
- ※家族みんなで出かけましょう。

彼岸明け（三月二十三日）

- お仏壇・お墓のいたんだ花や供物を下げます。



お中日に、お寺参りされた方に…

先祖供養をおつとめさせていただきます。

■ 3月20日（日）：春分の日 午前8時～午後4時

■ 清元院 本堂にて（1軒5分程度です）

■ その場で各家ご先祖供養の経木塔婆を書き読経して供養致します。

■ お気持ちを少し、賽銭箱にお入れください。（少額で構いません。）

おてらニュース①

● 四十人で除夜の鐘をつきました。

12月31日大晦日に除夜の鐘をつきました。約40名がおいでになり、108つの煩惱を払おうと何回もついておられました。年越しそばも全員に振る舞われ、焚き火を囲んで楽しい会話が弾みました。

夜中0時に108つ目がつき終ると、本堂で新年の三朝祈願の法要を行い、一年の所願成就、未病息災を祈りました。最後に全員でおとそと正月料理をいただき新しい歳の始まりを祝いました。



おてらニュース②

1月5日、清元院の開基、池田七郎定久が築城した「大仏山真道成仏の城」の跡に、保育園児と登りました。険しい坂を元氣よく登って、城跡から遠く日本海を眺めました。ある子供が「以西に生まれてよかったあ」と一言。

これからも以西の伝統文化を次代に伝えていきたいと思えます。



城跡からのぞむ日本海



三の丸跡から記念撮影

2月14日(日)鳥取県梅花流講奉詠大会が倉吉末来中心大ホールで開催されました。全県から400人の講師さんと方丈様が集まり、各教区ごとにステージに登壇して、日頃の練習の成果を披露しました。我が第5教区は約60名の登壇で、清元院からは講師さんと寺族3名が登壇、住職も維那といて方丈様方を代表してお経を唱える役を勤めました。信仰の心に満ちたお唱えに心が洗われた一日となりました。



鳥取県梅花流第48回春詠大会

お知らせ

塔婆入れを設置しました

本堂前に「塔婆入れ」を設置しました。時代の流れで古い塔婆を燃やす場所がなくなり、お寺でお焚き上げしてほしいという要望が多くなったためです。お預かりした塔婆はねんごろに供養させていただきます。

清元院サポーターズ倶楽部

お寺の簡単なお手伝いのボランティアをしてくださる方を募集します。法要の受付や接待、外仕事など、男女年齢を問いません。「やってやろうかな」という方はお寺にお知らせください。またお声かけした際には快く引き受けていただくと喜びます。

復活！お大師講

以西地区に88体ある、お大師様を一同にお寺に集めてご供養します。大正時代に始まった「以西村新四国八十八番」のお大師講を復活させます。

■5月21日(日)

午前10時～12時

※お大師さんがある家庭はお寺までお知らせください。

※詳細は後日お知らせします。

以西地区戦没者慰霊祭

約40年途絶えてきた以西地区慰霊祭を復活させます。遺族会と清元院の合同開催です。

■8月15日(月)

午前11時～午後1時

※詳細は後日お知らせします。

イベント案内

坐禅会を始めます

4月から坐禅会をはじめます。イス坐禅でもOKです。誰でもお気軽にご参加ください。

■毎月第3日曜日

・4～9月：午前5時半～

・10～3月：午前6時～

写経写仏の会を始めます

4月から始めます。簡単な写経や仏さまを写し書きする写仏をします。道具はいりません。誰でもお気軽にご参加ください。

■毎月第1日曜日

午後3時～

【住職のひとり言】 自分の不注意で肋骨にヒビが入って間もなく4週間。いろいろな方から「スキーでか？」と言われ、何回「違います…」とお返事したことでしょう(T_T) 辛い痛みも収まってきましたが、一番困っているのが、草取り。あの体勢がこんなに肋骨に響くものだとは知りませんでした。除草剤の容器も背負えないし。大般若法要や先代の3回忌法要も近いのに、境内には草が…(;_ _) さてどうしましょう。仏さまに相談してみましようか♡ どんなお返事が返ってくるのやら…